



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
FAX:0593-32-0733

## 掲示板法話

### さすらいでなく

### 無量寿のいのちに成る仏道を歩む

新年おめでとうございます。

「月日は百代の過客にして行き交う年もまた旅人なり」。これは松尾芭蕉「奥の細道」冒頭の有名な一節ですが、この言葉を痛切に思い起こさせるような友人の訃報が年末に飛び込んできました。「誰も詳しいことは分からない。君なら知っているのではないか?」という問い合わせです。

私も勿論初耳でしたが、彼の元勤務先の役所に知り合いがいるので、聞いてみようと引き取り、しかるべき所にお尋ねすると一時間ほどで判明。亡くなったのは事実で、一年八ヶ月も前の急死(当時65歳)とのことでした。家族葬のため、遺族の希望により役所からの参列は差し控えたそうですから、古い友人仲間には伝わらなかつたのは当然です。

これが昨今急速に増えてきた家族葬、あるいは直葬と言ふことなのか。一年前の歳末の「訃報葉書」もなかつたので、すから、我々の友人関係とは何だったのか、と深い空しさを覚えました。

他方、一昨年の秋布教に招かれたお寺の前住職さまから、「前坊守(69歳)

が先ごろ往生の素懐を遂げました。生前は親しくお導き頂き有難うございました」と言う丁寧なお手紙を頂きました。三年前にガンの手術を受け養生中であつたという経緯を聞き、一昨年の秋の大法要への熱心なお招きは感謝と私共への暇乞いであつたのか、と推察されます。長年の交流への感謝の気持ちをこのようなご配慮で伝えようとされたのだろうか、と思われ、奥ゆかしいご配慮と法味が伝わってまいりました。

「人生は長さだけではない。幅もあり、深さもある」とは金子大栄先生のお言葉です。長さとは個人の一生ですが、その一生を支える人間関係やご縁のつながりが幅であり、広いか狭いかという表面的な幅に留まらず、永遠の深みと味わいを知らしめるものが宗教的世界の持つ尊さでありましょう。

長いか短いかというこの世の命、広いか狭いかという娑婆の人間関係を越えて、無量寿のいのちにつながる人生が開かれている。この大いなる安らぎが、空しいだけの人生でなく、味わいと余韻を残してくれる基となるのです。



さすらいの旅人でなく、無量寿のいのちに成る仏道を歩む、確かな一年でありたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 報恩講フォトグラフ

(写真上)「僕も皆さんに「あいさつ!」

(下)報恩講のお非時料理



## ☆行事ご案内☆

### ☆『元旦会』1月1日午前9時より

正信偈、ご流杯の儀 記念写真、庫裏で歓談

新年のスタートは家族揃って本堂で声高らかに正信偈

### ☆『お朝事』

1月13・14・15・16日 毎朝7時より

本堂で正信偈、住職法話、茶話会等、1時間ほど

※1月夜の『門信徒会例会』は、行事が続くためありません

### ◇キッズサンガ

12月31日夜11時45分「除夜の鐘」誰でも撞けます!

1月1日午前9時「元旦会」本堂で正信偈、お年玉菓子付

1月12日(土)午後4時より『集い』お経、ゲーム等

お友達も誘ってきて下さい。夕方5時の鐘撞きは年中無休誰でもOK、当たり付ガムが好評。

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。

毎日更新する「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。

開設4年5ヶ月で9万4千訪問突破、一日平均100ほど、コメント大歓迎、一面お問い合わせ欄よりのメールや悩み相談には即返信します

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ

お電話を!5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

◇三重組コーラス 1月22日(火)午後1時半、西勝寺様にて



「お内仏報恩講」風景  
亮爾も一緒に

# 坊守スケッチ

## 袖触れ合うも他生の縁



毎日更新している『住職と坊守のつれづれ日記』という、我が家のブログを読んだ人から、コメントが寄せられた。

「近々我が家も息子夫婦と同居します。息子夫婦に子供が誕生して、経済的に苦しくなったので、親夫婦と同居したいと申し出て来ました。私達にとっては嬉しい筈なのに、素直に喜べません。初孫なのでとても可愛いのですが、息子の嫁とうまくやっていく自信がありません。私は姑と暮らしたことがなく、これまで核家族の気楽な生活に慣れきっていました。この先上手くやっていけるかどうか不安です。そんな時このブログに出会い、毎日孫の守りに奮闘する住職夫妻の記事を読み、不安な気持ちも幾分和らぎました。これからも楽しみに読ませて頂きます」

「コメントありがとうございます。息子夫婦は親一年生、私達もジジ・ババ一年生。両方一年生同士。付かず離れず、適度な距離感とお互いの気遣いが大切です。赤ん坊の笑顔と成長が、大人の感情の緩衝剤。孫にとっても、母親だけに育てられるよりも、多様な価値観の下で育てられることのメリットは大きい。人見知りをしない、誰とでもコミュニケーションが取れる子に育ちます。『案ずるより産むが易し』の諺のように、自然体で接することです」と返信しました。

このコメントを読んで、亡き先代住職の詩を思い出した。

『明るい嫁姑(おやこ)』

嫁は前世の娘げな 前世で因縁足らぬゆえ この世も親子と巡り来た重なる因縁たのもしや

姑は前世の親ぢやげな 前世で因縁足らぬゆえ この世も親子と巡り来た重なる因縁に 報いませよ(以下省略)

こんな詩が通用するのは一昔前のこと。現代では実の親子の関係も上手くいっていない。所詮他人同士、育った環境も時代も違う者が、同じ屋根の下で暮らしても上手くいく筈がないと、最初から決めてかかっている人もあるだろう。

昨年の報恩講で、講師の大畠先生の言葉が忘れられない。

「(娯楽・くらく)と(極楽・くらく)の違いは何ですか？漢字にすれば分かりませんが、声に出すと分かります。極楽には(苦・く)が入っています。(苦・く)の向こうには、極楽が待っています！」

目の前の苦勞から逃げて、楽しいだけの人生、気楽なだけの人生を送ってきた人には、おそらく他人の痛みや悲しみは理解できないだろう。人生は甘くない。老・病・死の苦勞が控えている。そんな時に慌てふためき、「何故自分だけがこんな目に遭わなければならぬのか？きつと他人のせいだ。寂しい……」

と愚痴を言わないようにしたい。

「袖触れ合うも他生の縁」の諺のように、多くの人のおかげの中で自分自身が生かされていると、気付いて生きていこう。日頃から周囲への感謝の心を忘れず、私にできることを心掛けたいものだ。

### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆退院へ 迎え待つ間を 「純と愛」 見て使い切る 院内カード

☆緊急か ライブで刻む 心拍音 深夜の ナース・ステーション内

☆ねこ押して 土橋を渡る 姫の絵 掛けて見直す 法語カレンダー

☆碧天を 一層高く 微風に 揺れて咲き初む 皇帝ダリア

☆鋸で剪り 脚立で下ろし 投げる こと 皇帝ダリア 花器に活けたり

四日市 釈妙水

☆吾子の足 仕切戸たたき 冬座敷

☆てっぺんの 皮だけ残る 柿一つ

☆コツコツと おでことおでこ 冬うらら

☆幼子の 知るや知らぬも 手を合 わす 姿こそ如來の 姿なりけり

### 小三重組コーラス

☆練習・ 智積西勝寺様 午後1時半 1・22(火)、2・25、3・25

### キッズサンガ・杉の子合唱団

☆「除夜の鐘」大晦日夜11時45分。 ☆「元旦会」午前9時、本堂で正信偈

子供はお年玉用菓子付。 ☆1月12日(土)4時お経ゲーム他

### ☆ホットニュース☆

☆12月1日(土)夜7時半「お内仏報恩講」庫裏で音楽法要他、ぜんざい、酒・寿司等、総勢44名が賑やかに参加!

【平成25年度善正寺の主な行事予定】

※1月1日朝9時「元旦会」

※1月13・14・15・16日朝7時より

『お朝事』本堂で正信偈、法話、茶話会

※3月16(土)・17(日)「春季永代経」

講師稲葉芳道師(奈良)

※5月19日(日)午前総会・午後「公開

法座」講師末本弘然師(大阪)

※8月24(土)・25(日)「秋季永代経」

講師足利孝之師(尼崎)

※9月22日(日)午前・午後「小杉町仏

教会追悼法要」講師鎌田宗雲師(滋賀)

※11月2日(土)午後・夜3日(日)午

前「報恩講」講師藤大慶師(京都府)

※12月7日(土)夜「お内仏報恩講」

※12月31日夜11時45分除夜の鐘

☆善正寺のホームページ「三重 善正

寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守

のつれづれ日記」が好評。開設4年5カ

月で9万4千訪問。毎日平均100訪

問。悩み相談メール、コメント大歓迎。

### ☆カンパ有難う☆

豊住久美夫様・柴田美津代様・他匿名

様、切手や御志ありがとうございます!

### ☆編集子より☆

「善正寺だより」229号をお届けします。◇新政権発足の新年だが、全てがうまくいく訳ではない。決められない政治は続く。◇「人生は苦なり」、危機に強い人づくりこそ重要ではないか?

明けましておめでとうございませう。我が家は孫を交え  
賑やかなお正月を迎えました。しかし世間を見渡すと  
この先不安なことはあり、一体私達の将来はどう  
なるのかという嘆きがあちこちから聞こえてきます。  
先月亡くなった歌舞伎役者の第十八代中村勘三郎  
氏(五七)は、多くの人から慕われていました。その  
人気の秘密は、四百年続く伝統芸能の上に、決して  
胡坐をかいていなかつたこと。今まで歌舞伎は  
無縁だった人の元へ自らが出向いて、歌舞伎の魅  
力を伝えられました。「守るべきもの」と「変えて  
いかなければならないもの」、一見相反すること  
ですが、それをしてっけり見極めて「勇気をもてチャレ  
ンジする姿」が、多くの人に感動を与えました。観  
客と役者が一緒になつて作り上げる舞台に、役者  
としての誇りと喜びを感じました。初代勘三郎の  
心算気に立ち返りました。混迷の時代には「原点  
に戻る」という精神が大切です。この世界にも「通  
用することでお寺でも例外ではありません。親鸞  
聖人のみ心に立ち返り、蓮如上人の行動力を見習  
うことで、閉ざされたお寺の雰囲気、風穴を開  
けましょう。悩みを抱えた人のそばに寄り添い、それ  
を受け止める坊守になるように努めよう。寺から  
の情報を発信し続けよう。今年も皆林からの  
ご協力もろくお願ひ申し上げます。合掌

平成二十五年一月

善正寺坊守 拝